

## 北海道東部厚岸沿岸低地の完新世バリアーシステムと海水準変動の復元

重野 聖之（茨城大学大学院理工学研究科）

### 堆積物の記録から海水準（海面）変動を探る

厚岸で採取された堆積物の記録（掘進長 61m の連続長尺ボーリング試料）を用いて、層相記載，粒度分析，貝殻遺骸群集分析，珪藻化石群集分析，AMS<sup>14</sup>C 年代測定を行い，それらを総合的に検討・考察した．その結果，現在から過去 1.4 万年までの海水準（海面）変動が求められ，以下の 3 点が明確となった．

- (1) 厚岸湾沿岸低地に後氷期海進が到達したのが 11,400 年前である．当時の海面の  
高さは現在より 50m 低かった．その後の後氷期海進によって，厚岸バリアーシ  
ステムが成立したのは 8,800 年前であった．
- (2) 厚岸低地においてバリアーシステムが現在も維持されている理由としては，  
5,500 年前から続く海面停滞の影響が大きい．そしてこの時期に厚岸湖のカキ礁  
も上げ潮三角州上に生成し始めたものと推測される．
- (3) 現在のバリアーシステムが地形的に明瞭であるのは，17 世紀の巨大地震以降の  
1cm/年に達する急速な非地震性沈降による影響が大きい．

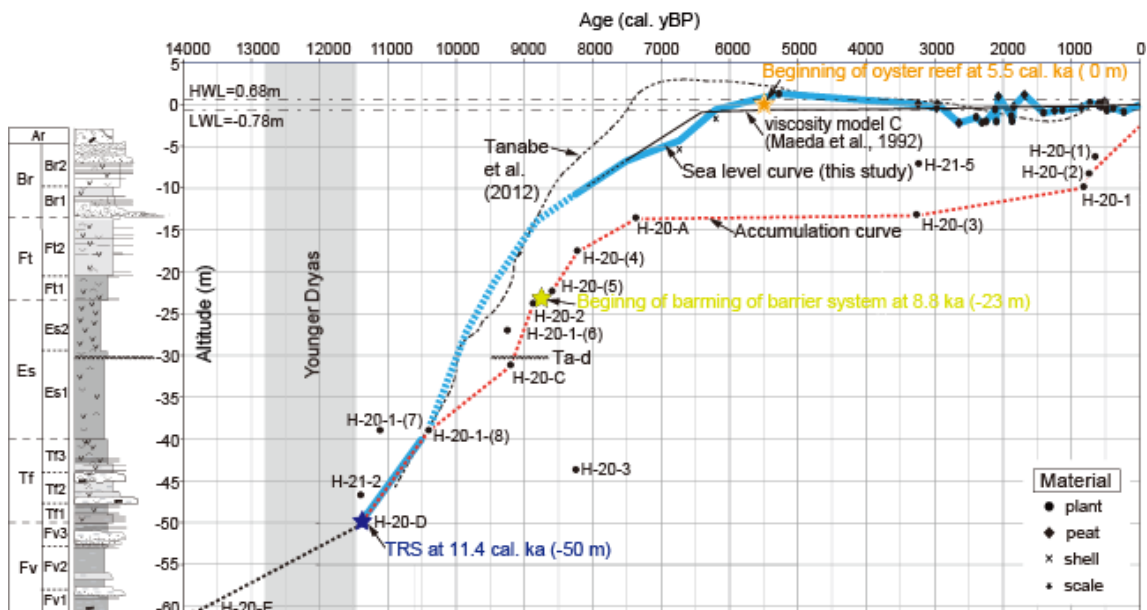


図. 厚岸沿岸低地の後氷期バリアーシステムにおける堆積速度曲線と海面変動曲線